

は し が き

本報告書は、平成15年度に当研究所において実施した「イスラム過激派のテロとそれへの対応」の研究成果を取りまとめたものです。

2001年の9.11事件以降、テロに関わる状況や認識は大きく変化しました。オサマ・ビンラディンを中心とするアルカーイダが引き起こしたとされるテロ事件は、中東、東南アジア、中央アジア、アフリカ、欧州の世界各地に拡散し、それは国際社会全体にとって大きな脅威となっています。

本研究の目的はこのアルカーイダについて、その背景、思想、実態および各国や国際社会の対策などから分析し、現在のイスラム過激派に関わる状況や今後の対応を考察することにあります。アルカーイダ関連のテロ事件には、各方面からの分析が続けられ、各国や国際社会の対応・対策が進められています。しかし、その評価は様々であり、全体像の正確な把握には未だ至っていません。それゆえ、アルカーイダまたはイスラム過激派に関する調査研究には多大な困難が伴いますが、少なくとも現時点におけるアルカーイダとそれへの対策に関わる総合的な情報を、本報告書にて網羅的にまとめる作業を試みました。

ここに表明されている見解は、すべて執筆者個人のものであって、当研究所ならびに各執筆者が所属する団体や機関の意見を代表するものではありませんが、本報告書の内容が、我が国におけるイスラム過激派の研究の質的向上に資することを期待します。

最後に、本研究に終始積極的に取り組まれ、本報告書の作成にご尽力いただいた各執筆者並びにその過程で御協力をいただいた関係各位に対し、改めて深甚なる謝意を表します。

平成16年3月

財団法人 日本国際問題研究所
理事長 佐藤 行雄

研究体制（敬称略）

主査	茂田 宏	日本国際問題研究所客員研究員 (前外務省国際テロ対策担当大使)
委員	板橋 功	公共政策調査会第一研究室長
	瀧澤 裕昭	警察庁外事課国際テロ対策室長
	藤原 和彦	中東ジャーナリスト(元読売新聞社カイロ支局長)
	益田 哲夫	公安調査庁調査第二部第二課長
	水越 英明	外務省総合外交政策局国際平和協力室長 (前総合外交政策局国際テロ対策協力室長)
	宮坂 直史	防衛大学校国際関係学科助教授
	吉村 郁也	内閣官房内閣情報調査室内閣事務官
幹事兼任	松本 弘	日本国際問題研究所主任研究員
担当助手	小柳 恵子	日本国際問題研究所プロジェクトコーディネーター